

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

<b>Title</b>	(第 11 章)台北市における民間遊民支援団体：社団法人芒草心慈善協會の事業展開と特徴
<b>Author</b>	中山 徹
<b>Citation</b>	URP「先端的都市研究」シリーズ. 16 巻, p.36-38.
<b>Published</b>	2019-03-25
<b>ISBN</b>	978-4-904010-31-0
<b>Type</b>	Book Part
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学都市研究プラザ
<b>Description</b>	包摂都市ネットワークの最前線：東アジアインクルーシブ都市ネットワークジャパンの活動報告
<b>DOI</b>	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

## 第 11 章

### 台北市における民間遊民支援団体

#### 一 社団法人芒草心慈善協會の事業展開と特徴

中山徹

##### 1 台北市における遊民支援と民間団体

台湾において、「遊民」（日本の「ホームレス」概念に近い）が最も多いのが、台北市である。2018年台北市における「遊民支援」は、「台北市遊民安置輔導自治条例」（2014年1月）に基づき実施されている。台北市の主な施策は、2つの「区」に遊民専門SWの配置と萬華区の支援拠点（萬華区社会福祉センター内にシャワー・）、担当のアウトリーチと緊急現場支援、「中途の家」（中間居住施設）への入所、仕事・生活再建事業等である。施設入所に重点が置かれている。台北市の民間支援団体は、6団体であり、多くは台北市の支援業務を受託している。6団体の内、（社団）芒草心慈善協會は、設立経緯と事業展開からも極めて特徴的な団体である。

##### 2 社団法人芒草心慈善協會の事業展開とその特徴

民間支援団体の1つである社団法人芒草心慈善協會は、幾つかの段階を経て発展してきた。当初台湾・日本・韓国・香港の国際交流等の組織として、大阪市立大都市研究プラザ台北サブセンター（2009年）として2011年設立された。当該組織の創設者は、台北市萬華区社会局遊民専門社会工員・楊運生氏（初代理事長）である。その後張獻忠氏等が参加した。2014年～2015年臺北市の遊民施策である「短期・臨時居住施設の運営」（2016年「臺北市夜宿補助方策」、2018年現在「補助辦理遊民住宿、外展及支持性服務」が該当）の委託を受け、萬華区三水街に1棟借り上げ中間的居住施設「三水樓」（1階部分事務室等、2～3階居住空間）を設立運営した。2014年には支援活動の範囲を「無家者自立支援策」に拡大し

た。①遊民当事者による「街遊」事業、②就業支援策として「起家工作室（KIGE）」の創設、③「ホームレス生活体験」等の活動である。地域住民とのコンフリクトや市議会議員問題等もあり、2015年12月組織内検討の結果、「三水樓」を閉鎖した。そして「龍山寺」真横に「事務所」兼「居住施設」を設けた。さらに今回訪問した新「事務所」（4団体と共有）と「居住施設」（「康定客棧」と「広州客棧」の2カ所、それぞれ10床で計20床）に移転し後者を設立した。そして、2016年には「臺北市夜宿補助方策」に申請しなかった。この時点が同組織の転換点と捉えられよう。台北市内には同市からの委託を通して、遊民現場支援（シャワー・炊き出し・物品提供等）・居住支援（中間的居住提供と入居中の生活支援）等を担っている団体は、「平安居」（公設民営）をはじめ「恩友中心」等が存在している。当該組織も、2013～2015年まで、上記の一翼を担っていた。その後、「遊民」を主たる対象としながらも、萬華区等の「社会的弱者」、就労支援と居住支援を通じた当事者「エンパワーメント」施策、さらに地域住民等への「啓発」活動等を展開し、他の遊民支援団体と異なった方向性を目指すことになったと考える。彼らの活動プログラムの柱である、①「自立支援」、②「OPENDOOR」の具体的メニューにそれが端的に示されている。これまで中間施設の運営は、民間「家主」から物件を借り上げ、市からの「補助金」によって運営された。脱「遊民」支援策として「居住支援」と継続的居住につながる「就労支援」が脆弱な台北市においてその果たす役割は重要であった。だが、「家主」と自治体との関係においては、低所得向け民間賃貸市場では、「グレー」な部分が存在し、「限界」が指摘されてきた。「三水樓」閉鎖以降、都市發展局の社會住宅政策である「借上・管理システム」（「包租・代管」）を担う「崔媽媽基金會」（居住弱者支援等）のプログラムによって基盤を構築してきた。同基金会在、物件を見つけ、芒草心が管理をするということで運営されている。今後の展開に注目したい。

#### 〔参照文献〕

2018年3月27日、同組織視察記録

社団法人台湾芒草心慈善協会『民国106年報（2017年年報）』1-2頁

李盈姿 (2016) 「從居住看無家者的社會扶助現況」、李玟萱『無家者』游擊文化  
249-259 頁